

しっぽの生命誌 ③

鳥の仲間 ツバメ

イヌがしっぽを元気に振る様子や、セキレイが長い尾を上げ下げするのを見ると、しっぽが心を表しているようで、私たちにもしっぽがあればとうらやましい気持ちになりませんか。おまけのようにも思えるしっぽですが、実は、生きもの多様な暮らしをとともよく表しています。しっぽのある生きものをつくり、端っこに宿る知恵を身近に飾りましょう。

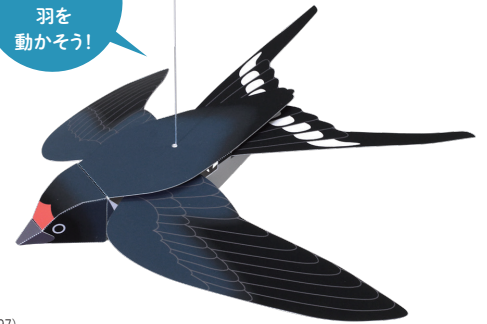


ツバメの渡りのコース



参考文献
『ツバメのみみつ』長谷川克ほか 緑書房(2020)
『ツバメ観察事典(自然の観察事典)』小田英智ほか 信成社(1997)

足を前後に
スライドさせて
羽を
動かそう!



河原を飛び回り春を告げるツバメは、駅やお店の軒先などで巣づくりする身近な鳥です。春につがい夏にかけて子育てし、夏の終わりには、その年生まれた若鳥とともに、タイやベトナム、インドネシアの島々などに渡って、越冬します。小さな体で数千キロの旅をする飛行のスペシャリストといえるでしょう。

ツバメの羽は、体に対して大きく長く、体は小さく流線型をしているので、羽ばたかずとも上手に飛ぶことができます。しかし、このような飛び方は、飛んでいる虫を捕まえるような機敏な動きには向きません。そこで尾羽を使い、揚力を操ることであの素早い動きを可能にしているのです。

ツバメの尾羽といえば、燕尾服を想像するように、中央が短く外に長く伸び

た形が特徴ですが、これをもつのはオスです。長く美しい尾羽をもつオスがメスに選ばれます。尾の白斑が鮮明だと切れ込みが深く見え、尾の魅力が引き立つようです。その一方で、長い尾羽は餌を取るのには邪魔で、尾の短い個体に比べて栄養状態が悪いという調査結果があり、生殖に有利でも生存には不利という説もあります。

美しいオスを好むメスの選択によって多くの子孫を残せば、命の危険があるとうと美しさは進化するとダーウィンは考えました。飛ぶツバメの姿に進化のしかけが見えてきます。

作り方

- 切り取り線にそって、カッターナイフやはさみでていねいに切り抜きます。
- 折り線にそって、鉄筆や芯を出していないシャープペンシルなど適度に先のとがったものを定規にあて、まっすぐ線を引くように筋をつけます。
- 記号にしたがって折り曲げ、説明図を見ながらのりづけして組み立てます。細かい部分の組み立てには、ピンセットを使うと便利です。
- のり付けには木工用接着剤を使います。いったん小皿に出してから、つまようじを使って薄くむらなく塗りましょう。

1 折り目をつけた後、羽4枚を裏返し、同じ色ののりしろをぴったり貼り合わせます。

→ のりづけ
→ 穴を通す・丸めるなど (のりづけしない)

2 羽の穴に軸を通し、上面に③～⑥を貼って抜けないようにします。

軸を立てたまま貼ります。

羽は自由に動きます。

切り込みを起こし、コの字に重ねてのりづけして軸を作ります。

3 胴体に、吊るすための糸を取りつけます。

背中に小さな穴を開け、パーツの表面から適当な長さの糸を通し、裏面でテープで貼って固定します。

4 左右のすき間から4枚の羽を出しながら、背中の内側にぴったりのりづけします。

5 ABC順に体を閉じて組み立てます。

体の側面を軽く丸めながら、首を閉じて一方ずつのりづけします。

お腹の穴からは足が出ます。

6 糸で吊るして飾りましょう。

頭は、のりが乾くまでしっかり押さえましょう。

片手で体を支え、もう一方の手で足を前後に動かすと羽が開きます。

デザイン：坂啓典(図工室)